

講義コード	515101202	
講義名	児童文化II CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤教員	遠藤 隼	女子短期大学部
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし
専任教員	横井 夏子	女子短期大学部

授業の概要

授業の概要

1泊2日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、未就学児のいる親子へむけた遊びの実践、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。

②授業形態

基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。

③アクティブラーニング

授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。

④課題に対するフィードバック

フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。

授業の到達目標及びテーマ

本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。

これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	予習	復習
	横井夏子				

第1回	遠藤隼	第1回：グループワーク1	下見報告、メンバー・スタントの最終確認		
第2回	横井夏子 遠藤隼	第2回：グループワーク2	グループワークキャンプに向けたスタント配役、シナリオ調整	必要資材の準備	必要資材の準備
第3回	横井夏子 遠藤隼	第3回：グループワーク3	グループワークキャンプのスタント衣装・小道具製作	必要資材の準備	必要資材の準備
第4回	横井夏子 遠藤隼	第4回：グループワーク4	グループワークキャンプのスタント練習	スタント練習	スタント練習
第5回	横井夏子 遠藤隼	第5回：グループワーク5	グループワークキャンプに向けたリハーサルとフィードバック	スタントの練習	フィードバックを踏まえた練習
第6回	横井夏子 遠藤隼	第6回：グループワークキャンプの振り返り	グループごと、及び個人ごとのキャンプの振り返り		
第7回	横井夏子 遠藤隼	第7回：自然保育について	森のようちえん活動や自然と関わる保育の実態と現状を学ぶ		森のようちえんについてまとめる
第8回	横井夏子 遠藤隼	第8回：わいわい広場の計画1	わいわい広場の立案、役割分担	必要資材の準備	必要資材の準備
第9回	横井夏子 遠藤隼	第9回：わいわい広場の計画2	わいわい広場の準備、練習	必要資材の準備	必要資材の準備
第10回	横井夏子 遠藤隼	第10回：児童文化財の活用 (わいわい広場での実践)	わいわい広場での実践とフィードバック	わいわい広場の準備	実践のふりかえり
	横				

第11回	井夏子 遠藤隼	第11回：わいわい広場の振り返り・パネルシアター1	わいわい広場の振り返りとパネルシアターの基礎	振り返りの準備	パネルシアターについてまとめる
第12回	横井夏子 遠藤隼	第12回：パネルシアター2	パネルシアターの製作	必要資材の準備	必要資材の準備
第13回	横井夏子 遠藤隼	第13回：パネルシアター3	パネルシアターの練習	必要資材の準備	パネルシアターの練習
第14回	横井夏子 遠藤隼	第14回：パネルシアター4	パネルシアターの実演とフィードバック	実演の練習	フィードバックのまとめ
第15回	横井夏子 遠藤隼	第15回：パネルシアターの振り返り	パネルシアターの振り返りと全体の振り返り		

授業時間外の学修

事前に単元となる教科書の下読みをして授業に臨む。
(各回の予習には15分かかると想定される。)

また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施すること。
(各回の復習には30分程度かかると想定される。)

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
○	◎	◎	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
グループワーク内容の理解	自ら進んでグループワークに関する内容を調べ理解できており、その内容を他	グループワークに関する内容を調べ理解できており、その内容を他者に	グループワークに関する予習はやれているが、その内容理解はあいまい	グループワークに関する予習が不足しているため、その補

(予習も含む)	者にも詳しく説明することができる	も概ね説明することができる	な点がある	充を教員が助言している
グループワークの際の行動・態度	課題設定手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめている。画面がとも見やすい。	課題設定の手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめている。	課題設定の手順と実際等が、教員の支援を基にまとめている。	教員の支援があっても、なかなか自身でまとめをすることができない。
"レポート力 (レポート内容)"	グループワークのテーマについて、詳細な考察をまとめている	グループワークのテーマについて、考察をまとめている	グループワークのテーマについて、考察をまとめているが、内容についてあいまいな点が少しある	テーマについての考察がなされていないので、手厚い支援を行っている

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	50%	演習の各種アクティビティ、授業態度
レポート	50%	2本課題レポートを課す
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

等	クリッカー、アンケート、小テスト
---	------------------

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60~100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) プレゼンテーション	PBL(課題解決型授業)	授業後レポート

教科書	
○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。	
参考書	
<ul style="list-style-type: none"> ●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。 	
SDGsとの関連	
を	3. すべての人に健康と福祉
う	15. 陸の豊かさも守ろ
特記事項等	
①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。	
②科目のナンバリング SCO1207	
③オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。	
④その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。	
研究室（訪問先等）	
中央研究棟2階 225研究室 出講日は、前期が火曜日・水曜日・木曜日、後期が火曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。	
電話番号	
028-667-7111（代表）	
授業用E-mail	
yokoi@sakushin-u.ac.jp	
成績評価法	
①試験	0% 試験は実施しない
②レポート	50% 2本課題レポートを課す
③平常点	50% 演習の各種アクティビティ、授業態度
④その他	0%